

One to One

次のステージへ新たな一歩

みやぎNPO 夢ファンド

【ステップアップ
支援プログラム】

助成団体決定



▲助成が決定した
「World Open Heart」



▲審査にあたった運用委員

桜のつぼみが色づき始めた4月10日(土)、みやぎNPO夢ファンド(以下、夢ファンド)の公開コンペ(審査会)がみやぎNPOプラザで開催されました。第一次書類審査を通過したのは4団体。事業への熱い思いがこもった発表に、学識者やNPO関係者などからなる7人の運用委員からは、鋭い質問やコメントが出されました。

今回、公開コンペが行われたステップアップ支援プログラムは、宮城県のモデルケースになることが期待される非常に公益性の高い事業に対し、その一部として100万円が助成されるプログラム。審査の結果、助成が決定したのは「World Open Heart」です。

「犯罪加害者家族支援体制の拠点づくり」

「World Open Heart」は、犯罪加害者家族の支援を中心に活動している団体です。加害者家族を対象とした「わかちあいの集い」や、一般向けの支援のための勉強会を定期的に開催してきました。

活動の背景には、加害者家族が抱える様々な問題があります。犯罪が起きた後の家族の精神的・社会的なダメージは大きく、自責の念から自殺に至るケースもあり、支援は緊急の課題となっています。しかし、国内では、そうした家族に対するケアは、ほとんど行われていないというのが現状です。

団体が行った調査では、加害者家族が求めている援助として「同じような体験をした人たちと話し合える場所の提供」「行政・司法手続きに関する情報提供」「裁判所への付き添い」などが上位にあがりました。それらの結果を踏まえ、今回の事業では活動の拠点となる事務所を県内に開設し、「わかちあいの集い」の充実や、情報提供のためのホットラインの開設、付き添い活動などを行います。

発表した代表の阿部恭子さんは、「まずは、支援方法

を確立させ、そのノウハウを宮城から全国に発信していくことが目標です」と事業への意気込みを語りました。

平成16年度から始まった夢ファンドも今年度で7回目を迎え、約2,835万円の資金が県内のNPOに助成され、活動を支えてきました。夢ファンドを足掛かりに安定した事業の継続へと発展させたNPOも数多くあります。今回の助成も、団体にとっての大きなステップアップへとつながっていくことが期待されます。

「みやぎNPO夢ファンド」とは？

宮城県の拠出金と、市民からの寄附金を原資とするファンド(基金)で、県内NPO活動支援を目的に、宮城県と(特活)せんだい・みやぎNPOセンターが協働により設置し、運営しています。

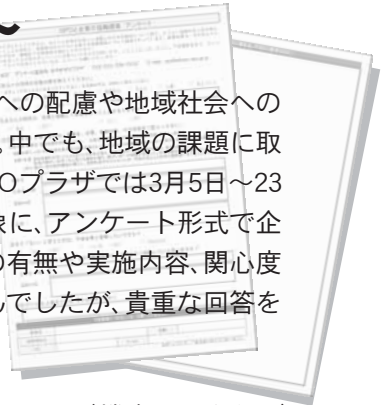
プログラムは3つに分かれており、「ステップアップ支援プログラム」の他に、組織課題の解決に向けた体制づくりの経費の一部が助成される「組織開発(人材育成を含む)支援プログラム」、新規事業の立ち上げや、これから活動を始める団体に、その初期費用の一部を助成する「スタートアップ支援プログラム」があります。

は

はじめの一步は「現状を知ること」

～NPOと企業の協働調査を実施～

企業の社会的責任(CSR)という言葉は今や一般的になり、環境への配慮や地域社会への貢献など、社会的な取組を行う企業が見られるようになりました。中でも、地域の課題に取り組んでいるNPOと連携して活動する企業もあります。みやぎNPOプラザでは3月5日～23日にかけて、宮城県内の無作為に抽出したNPO法人166団体を対象に、アンケート形式で企業との協働調査を実施。メールやFAX等で、企業と協働した経験の有無や実施内容、関心度を尋ねました。返答数は29団体(返答率:17%)と多くはありませんでしたが、貴重な回答を得ることができました。



アンケートに回答があったNPOの中で、企業と協働を経験しているのは41%にあたる12団体。現在事業を実施中のNPOもありました。企業から障がい者の宅配配達業務の委託を受けているNPOからは、「障がい者の就労機会、地域住民とのコミュニケーションの場が拡大したという成果を実感している」という回答がありました。又、企業からの委託でイベント開催を行ったNPOは、「資金を得た上に、企業の強みである広報力を借り活動を広く周知できた。一方、企業からはイベントの雰囲気は例年より温かくなった」と好評を得たといえます。

協働の経験がないNPOの約半数も企業との協働を希望しており、関心は高い様子。「同じ分野の企業と連携しミッションの達成に近づきたい」、「企業側か

らの新しい発見を期待したい」、など機会さえあれば積極的に連携を希望する姿勢が伺えました。一方で、企業と連携する難しさや不満を痛感したという意見も見逃せません。

NPOと企業双方がメリットを得られるWin-Winの関係を結ぶためには、互いを尊重しつつ率直な意見交換を行い、信頼関係を構築し、双方の資源を効率的に使いながら、成果をあげていくことも重要となります。

みやぎNPOプラザでは、今後東北大学大学院経済学研究所高浦研究室と協力し更に調査研究を進め、事例発表を通して協働の方法や可能性を探り、NPOと企業の橋渡しを行っていく予定です。情報は随時、みやぎNPOプラザ館内やOne to Oneでお伝えしていきます。

県からのお知らせ

講座を開催したいけど…
という、NPO支援センター、中間支援型NPO、市町村のみなさん!
県が講師謝金・交通費を負担します!

NPO支援センター助太刀事業

Q.NPO支援センター助太刀事業とは?

この事業は、県内各地域のNPO支援センターや中間支援型NPO、市町村が、NPO活動促進のためセミナーや講座等を主催する際に、県が共催することにより、講師への謝金及び交通費を負担するというものです。

Q.それぞれの役割は?

主催 県内各地域のNPO支援センターや中間支援型NPO、市町村

▶ 講座の企画・運営、講師との連絡調整など

共催 宮城県

▶ 講師謝金、交通費等の支払(※講師へ直接支払われます)

Q.今後のスケジュールは?

NPO支援センター等を対象に、セミナー等の開催時期やセミナー内容など、現時点における予定を調査し、その結果を踏まえ、共催申請書の申込期間を確定し、受付を開始します。申請の方法や、実施したい事業が対象となるかなど、ご不明な点はお問合せ下さい。

宮城県共同参画社会推進課

TEL:022-211-2576

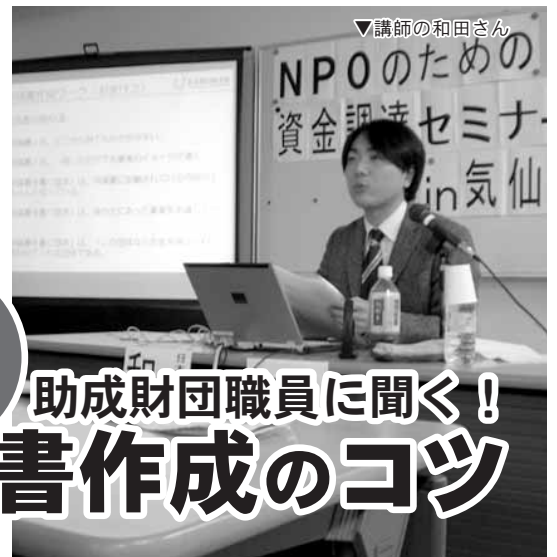
E-mail:kyoshan@pref.miyagi.jp

URL:<http://www.pref.miyagi.jp/kyosha/np/sukedachi.htm>

3月18日、気仙沼市で平成21年度最後となる出前講座「NPOのための資金調達セミナー」を開催しました。気仙沼市地域交流センター(ワン・テンビル2階)で行われた講座には、これから助成金申請を考えているNPOや、関心のある市民など20名以上の参加者が集まりました。

「助成財団職員が教える、心をつかむ申請書の書き方」をテーマに、日本財団海洋グループの和田真さんを講師に迎え、助成金申請のポイントを講義とワークショップで学びました。「助成金の申請を受けて、まず初めにする事はインターネットで申請団体が情報公開を行っているかどうかを確認することです。」という和田さん。情報開示を行っているか、活動を常に発信しているかで印象は大きく変わるという「審査する側」のウラ話には、大きくうなづく参加者の姿も見られました。後半には実際に申請シートに書き込んだり、良い申請と悪い申請の例を見比べたりと、盛りだくさんの内容に、参加者からは「今後の助成金申請の役に立ちそうだ」という声が聞かれました。

また、今回の講座は気仙沼の(特活)ネットワークオレンジと共同で開催しました。地元で活躍するNPOと連携することで、開催地のニーズに合わせた企画



in 気仙沼 助成財団職員に聞く！ 申請書作成のコツ

や運営、そして地元ならではの機動力を活かした広報を展開することができ、NPOをはじめとする、様々な参加者同士の出会いや情報交換の場にもなりました。

宮城県のNPOが継続して活動できる組織づくりのため、役に立つ情報や学ぶ機会を県内各地にお届けする「出前講座」。実施1年目の昨年度は、石巻、登米、大河原、柴田、大崎、気仙沼の6ヶ所で開催し、計130名の参加者がありました。今年度も県内各地で実施する、みやぎNPOプラザの出前講座にご期待下さい。

NPO法人 いよいよ大詰め 会計基準の最終案

全国のNPO支援組織や会計支援の団体など78団体が参加しているNPO法人会計基準協議会が4月8日にNPO法人会計基準の「最終案」を発表し、現在、最後のパブリックコメントを募集中です！

会計基準を「市民参加型」で策定するという、日本では初めての試みは、昨年3月末に立ち上がった協議会の下、専門家や助成団体、研究者などが委員の「NPO法人会計基準策定委員会」が7回の協議を経て、31項目の会計基準の最終案を決定しました。その最終案は協議会で承認され、インターネットを使って全国のNPO関係者からの意見を聞くパブリックコメントの募集へと進行しています。

最終案は、31項目の「NPO法人会計基準」に加え、それに付随する「NPO法人会計基準注解」、そしてこの基準が作られるまでの議論を踏まえた24ページに及ぶ「議論の経緯と結論の背景」で構成されています。また、



同時に「実務担当者のためのガイドライン」案も提示されました。会計担当の実務者にとっては、ガイドラインの方が、記載例を挙げた解説に加え、“NPO法人会計基準のQ&A”の構成になっているため、より判りやすいものとなっています。

4月8日に東京都文京区民センターで開催された公開イベント「最終大論戦！NPO法人の会計報告が変わる!?～ボランティア活動は収益として計上すべきか!?～」には100名以上が集まり、関心の高さを示しました。

会場に集まった参加者の7割はNPO。「現金主義から発生主義・複式簿記へ」「ボランティアによる役務の提供を条件付で活動計算書にあげる」「費用を『事業費・管理費』から『人件費・その他経費』でわけてみる。」の3つの論点に対しての意見が交わされました。

NPO法人会計基準の最終案とパブリックコメント入力は、<http://npokaikei.blog63.fc2.com/blog-entry-74.html>に掲載されています。ぜひ、皆さんもご意見をお書きください。

(写真提供:NPO法人会計基準協議会)

NPOのためのネット講座

5/25 火 行政職員のための NPO理解講座

NPOの基礎を学び、市民と行政が持ち味を活かして行う地域づくりを、考えてみましょう。新年度を迎え、市民活動やNPOの担当になった方、改めて市民と行政の協働について理解を深めたい方、そんな皆さまのご参加をお待ちしています！
※講座中、参加者の皆様が交流できる時間を設けます。ぜひ他の市町村の職員との繋がる機会としてご利用ください。

- 日 時：5月25日(火) 14:00~16:00
- 講 師：大久保 朝江さん(特活)社の伝言板ゆるる代表理事)
- 対 象：宮城県や市町村の職員(定員30名)
- 資料代：無料

NPOのための会計・税務講座

6/3 木 NPOのための 会計初級講座

NPOにとって、的確で滞りのない会計処理をし、その結果を報告することは多くの人の信頼と支持を得るために欠かせません。今回の講座では、「NPO会計マニュアル」をテキストに、NPO会計の基礎から帳簿の付け方、具体的な会計処理の方法までを分かりやすく学びます。

- 日 時：6月3日(木) 13:30~16:30
- 講 師：平野由紀子さん(税理士)
- 対 象：NPOの会計担当者や理事、監事(定員20名)
- 資料代：1,000円 ※会計マニュアルをご持参の方は800円
- 持ち物：電卓、筆記用具

専門相談
NPOのための

■会計・税務相談→5/28(金)、6/25(金)

日々の会計業務から決算書作成や税金のことなど、NPO会計に詳しい税理士が、ご相談をお受けします。

◎相談対応：税理士 平野由紀子さん

- 時間：13:00~17:00 ●定員：各3団体(相談時間：1団体1時間程度)

■法人設立・団体運営相談→毎週水曜日

NPO法人の設立に関わることや、NPOの運営について、お気軽にご相談ください。

◎相談対応：みやぎNPOプラザ館長 大久保朝江さん

- ※事前予約が必要です。(申込締切：開催日の6日前)

みやぎNPOプラザ TEL:022-256-0505 FAX:022-256-0533 E-mail:npo@miyagi-npo.gr.jp

- 申込：講座・専門相談は要予約。所属団体・参加者氏名・連絡先・電話・FAX番号・質問事項をご記入のうえ、FAX・メール・電話にてお申込み下さい。
- 主催：宮城県(みやぎNPOプラザ) ●企画・実施：特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

ショップスペース入居団体決定!!

3月に入居団体選考審査会を行った、「ショップスペース」には、「みやぎ・クレーシの会(左)」と「フラワーセラピー研究会仙台(右)」の2団体の入居が決定し、4月から活動を開始しています。新しくなったショップスペースにも是非お立ち寄り下さい。



■新規のNPO法人認証団体

(平成22年2月15日~平成22年4月15日まで)

宮城県のNPO法人数 **547 団体** (平成22年4月15日現在)
※解散、所轄庁変更、認証取消、認証撤回した団体を除く。

団体名	所在地	活動内容
仙台麻酔普及協会	仙台市泉区	麻酔医療の普及及び充実に関する研究事業、啓発事業等
新現役生活	仙台市宮城野区	中高年齢者の社会福祉活動、コミュニティ活動、国際協力活動事業等
まちづくり・ACT・いしのまき	石巻市	地域の情報発信やイベント、研修等の企画・運営事業等
あんしんどう福祉会	仙台市若林区	高齢者、障害者、子育て支援
みやぎメディカルライフセービング協会	仙台市泉区	心肺蘇生法及び外傷初期診療に関する医療技術、知識等の普及等
人と人をつなぐ会	仙台市青葉区	講演会の開催等及び地域社会活性化
宮城県就労支援事業者機構	仙台市青葉区	就労支援を通じた犯罪者等の更生の支援
仙台シニアネットクラブ	仙台市宮城野区	各種IT講習会、企画運営等
パソコン要約筆記文字の都仙台	仙台市宮城野区	パソコン要約筆記通訳者の派遣等
故郷まちづくりナイン・タウン	登米市	石ノ森章太郎ふるさと記念館への活動支援事業、演奏会・展覧会等の開催事業等
Azuma-re	栗原市	市民公益活動の推進に関する情報収集、講座開催等の事業
フォレストサイクル元樹	栗原市	木材の需要喚起につながる活動
みやぎ廃食油研究所	岩沼市	廃食油の資源化・活用及び雇用創出・地域活性化に係る事業

One to One

発行日：2010年 5月 1日
発行：宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)
編集：特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
編集スタッフ：荘司紗敏 清野利之

〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5
TEL：022-256-0505 FAX：022-256-0533
e-mail：npo@miyagi-npo.gr.jp
URL：http://www.miyagi-npo.gr.jp

2010
MAY
vol.55

「One to One」は、県内各地でのさまざまなNPO活動により、ひととひとが信頼でつながって、よりよい市民社会が形成されるようお願いを込めたニュースレターです。